豊友

第172号

http://bussei.gr.jp/

Buzanbussei
Buyu

題字　浅井侃雄　猊下

退任挨拶

真言宗豊山派仏教青年会　第三十三代会長　千葉一号
吉祥院　鈴木 真人

常日頃より、豊山仏青の活動に多大なるご理解ご協力を賜り心より御礼申し上げます。

早いもので、令和二年四月一日より拝命しました豊山仏青第三十三代会長としてのお役も、本年三月末日をもちまして任期満了を迎え、退任することとなりました。

任期中には浅井侃雄猊下、鈴木常英宗務総長をはじめとする宗派内局御重役様並びに宗内外諸大徳様、関係各位より賜りましたご教示、ご鞭撻に深く感謝申し上げます。

就任当初よりコロナウイルスが世界中に蔓延し、度重なる事業の中止や延期があり、まるで先の見えない暗いトンネルの中からのスタートでした。そのような中、事務局長をはじめとする各次長の奮闘のお陰で理事会、諸会議、講習会をオンライン形式・ハイブリッド形式とすることで、コロナ禍における活動に一筋の光明が見えたと思います。

その一筋の光明が遍く照らされたのが、富田道興実行委員長のもと開催された全真言宗青年連盟第四十二回結集東京大会だったと思います。全青連の長い歴史の中でも初めてのオンラインによる結集開催は、暗中模索のなか無事開催に至り、その結果多くの参加者様からお褒めの言葉を頂戴できましたのも、富田実行委員長をはじめとする実行委員の皆様と、ご指導賜りました先輩方のお陰です。心より御礼申し上げます。結集配信当日、会場では若い会員諸師がインカムをつけ、慣れないカメラをまわし、スイッチャーを駆使して、パソコンでテロップを出すなど、コロナウイルスが蔓延する前では考えようもなかった作業を黙々とこなしていました。そんな次代の精鋭たちの姿を目の当たりにできたのはこの上ない光栄であり、貴重な体験となりました。

もとより浅学菲才の身である私が伝統ある豊山仏青会長の重責を全う出来ましたのも、至らない私を配慮してくれた木村副会長、渡辺副会長、茨木副会長、黒瀬副会長、野々部事務局長、石井総務次長、金子事業次長、星野会計次長、北林広報次長、三津田監事、平井監事の執行部の皆様、作業を手助けしてくれる多くの事務局員の皆様の支えと、四十七地区の会長様、理事様より頂戴しましたお力添えの賜物であります。

仏青だから出来る事、仏青でしか出来ない事は沢山あると思います。そしてそこに参加し、経験を共有し意識を高揚させることはかけがえのない財産になると考えております。これからを担う若い会員の皆様には、是非積極的に参加していただき、今後の活動の糧としながら、一生の仲間をも作る場として、この仏青活動に関わってもらいたいと思います。

最後になりましたが、豊山仏青の益々の発展と会員の皆様のご健勝を祈念申し上げ、退任の挨拶とさせていただきます。

合掌

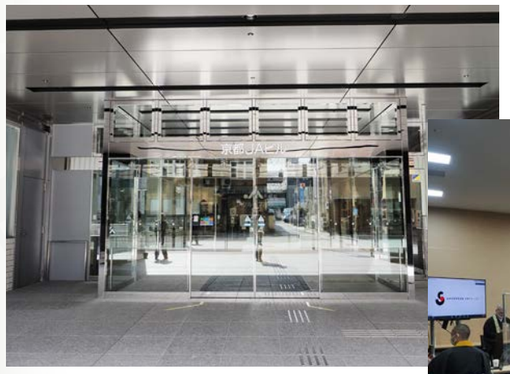
全真言宗青年連盟　広報フォーラム

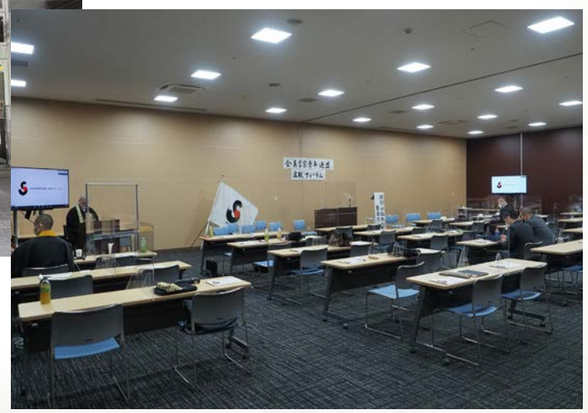
～新しい時代に、確かな法を伝えていくために～

令和三年十一月三十日(火)、京都ＪＡビル及びオンライン(ＺＯＯＭ)にて全真言宗青年連盟広報フォーラムが開催されました。泉涌寺派教学部長、種智院大学講師、泉涌寺派戒光寺住職の渡邊恭章僧正より、法話に必要な姿勢や心構え、テクニックなどについてのご講演を、「カエル寺」として有名な御室派如意輪寺住職の原口元秀僧正より、ご自身の「カエル寺」での経験から寺院広報、愛されるお寺の作り方についてのご講演をいただきました。最後に、六大新報社代表、大覚寺派大悲王院住職の喜多村龍介僧正をコーディネーターに、これからの寺院、僧侶の在り方をテーマとしたパネルディスカッションが行われました。

いわゆる「宗教離れ」の拡大や、昨今のコロナ禍による社会不安の高まりなど、いまの僧侶として向き合うべき課題をピックアップしながら、それらも捉え方次第ではチャンスであるという視点(例えば、宗教離れであればイチから教導する良い機会である、コロナ不安に対してはそれを安心へ転換させることで宗教の存在価値を発揮すべき等)から、具体的な布教についてのケーススタディなど、とても勉強になり、得るものの多いフォーラムでした。

初の現地／オンラインでのハイブリッド開催となり、準備調整と大変な中、主催いただきました全真言宗青年連盟様、ご講義いただきました講師の先生方には厚く御礼申し上げます。





オンライン講習会に参加して

茨城中部仏教青年会　徳聖寺　多田宏訓

令和三年二月二日（水）、動物供養協議会理事・浄土宗感應寺住職・成田淳教師を講師に「ペット供養の概観と実務」と題した講習会がオンラインにて開催されました。

昨今は、ペットを従来のような単なる愛玩動物としてではなく、より密接な関係を持つパートナー（伴侶動物）として家族同然に大切に接する「コンパニオンアニマル」という発想もよく聞かれるようになりました。動物たちの生涯に渡るQOLの向上はもとより、その死後に関しても人間のそれと同じ水準の弔いを志向する人々が増えています。ここには、人間関係の希薄化や室内飼育の一般化、医療の発達によるペット動物の長寿化など、様々な要因が考えられますが、――是非は措くとして――コロナ禍によるペットブームの加速もあり、今後ますますその需要が高まって行くことは間違いなさそうです。

動物供養自体の教義的な捉え方については、今後さらに議論を要するところかと思われますが、葬儀や埋葬の実際や、墓地・遺骨などの法的な位置づけ、飼い主であった喪主への寄り添い方など、年間数百件ものペット供養をお勤めになるご経験をもとにした成田先生のご講義は、非常に具体的で真に迫る内容でした。

特に印象的だったのは、ペットとの死別によって飼い主にもたらされる悲嘆についてのお話です。

先生によれば、当然個人差はあるものの、過呼吸の症状が出たり、立てなくなってしまうことがあったり、「親を亡くした時よりも辛い」との声もよく聞くということでした。人の死の場合、葬儀や相続の手続き、関係者への対応など、その後の準備に慌ただしく動く中で、それがある面では、徐々に故人との死別を受け入れるような時間的猶予として機能します。しかし動物にはこれがなく、死の直後から急激な悲嘆に晒されるようです。ところが彼らの多くは毛に覆われているため、例えば猫であれば、肉球や耳の部分が少し白くなる程度でただ寝ているだけのようにも見え、死の実感を持ちづらいという相反する状況もあるそうです。この矛盾により、感情の激しいアップダウンを繰り返してしまい、さらに関係者も少数であることにより、悲嘆の反応がより強く出てしまうのではないかというのが先生の分析でした。

またそれ故、ペット供養の現場では喪主の方への「共感」が非常に重要で、不用意な言葉遣いなどが出てしまわないように（例えば「犬・猫→わんちゃん・ねこちゃん」、「エサ→ごはん・おやつ」等）配慮しながら寄り添う必要なども多いことから、ペットとの生活経験があり、悲しみや愛情を共有できるような僧侶がその適性において有利なのではないかということでした。

ペット動物との生活そのものは万国共通の人間の営みです。ただし、その死に際して宗教的儀礼を伴った弔いを行うというのは、海外ではあまり見られないそうで、これは日本（＝仏教）に特有の文化といえるのかもしれません。そしてこのことは、仏教の輪廻思想において、人間道と畜生道とが同じ六道の中にあり、人と動物という存在を不可逆に切り分けてはいないことと、決して無関係ではないように思えます。

この日の先生のお話で、日本の動物供養の歴史をみたとき、古くは軍馬などに戒名を授与していた例があるというお話もありました。いま世界では、ペットに限らず全ての家畜動物を可能な限り気遣い尊重していく、動物福祉（アニマルウェルフェア）や環境エンリッチメントという考え方が国際スタンダードとして定着しつつあります。残念なことに日本においては、このような議論はまだまだ発展途上というのが現状であるものの、その土台となるべき精神性はむしろしっかりと存在しているのではないか、動物を大切に想い死後の冥福をも願う独特の価値観が既に長い歴史をもって我々日本人の中に息づいていたという事実が、そのような期待を抱かせます。そして、その根本にあったはずの仏教思想の懐の深さと慈悲の広大さに改めて敬服し、一末弟としてますます研鑽に励んでいかなければと感じました。

この度、貴重な講習会の機会をいただけたことに感謝申し上げ、報告とさせていただきます。

講習会の収録映像は、
後日豊山仏青公式ウェブサイト内の会員ページにて公開予定です。

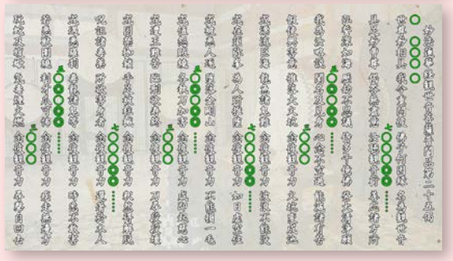
動画配信「法楽太鼓ー観音経ー」

豊山仏青公式ウェブサイトでは、会員向けコンテンツとして、これまでの講習会の収録動画や、オリジナルの教材動画を公開しています。

この度、太鼓学習動画として、第一弾『般若心経』に続いて『観音経』の公開を開始しました。

会員ページへのアクセス方法など詳細は、過去の『豊友』168-169合併号をご参照ください。

「こんな講習を聴いてみたい」「○○の参考になる資料が欲しい」等、会員の皆さまからのご意見・ご要望も随時お待ちしております。豊山仏青公式ウェブサイト・お問い合わせページより皆さまのご意見を是非お寄せください。



寄附報告

一昨年の令和二年二月二十六日（水）、豊山太鼓千響はサントリーホールにて、創立十周年記念コンサート「千響～いのちの花」を挙行いたしました。新型コロナウイルスが全国に広がりつつある中での開催でしたが、感染予防を徹底したうえで多くの皆さまにご来場いただき、この模様は昨年の『豊友』一六七号にてご報告申し上げました通りです。ここでの収益金の一部と募金により皆さまから頂戴賜りましたご浄財は、この頃に発生した自然災害被災地などへの寄附金として分配を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大により、その機会を得ることができないまま時間が経過していました。

この度、令和元年台風第十五号、同年台風第十九号及び同年台風第二十一号において甚大な被害に遭われた千葉三号支所への寄附金百万円、千葉四号支所への寄附金五十万円を、吉田耳人支所長、木村量興支所長へそれぞれお渡しする機会をいただき、寄附金の分配が完了いたしましたので、ここにご報告申し上げます。また、この台風災害により被災された方々には心よりお見舞い申し上げますとともに、復興に尽力されている皆さまの安全とご健勝をお祈りいたします。

千葉３号支所への寄附

千葉４号支所への寄附

今後の予定

写仏講座

令和四年　開催協議中

決定次第、HP、facebookにて告知いたします。

全青連結集―大覚寺大会

令和四年十月七日(金)

編集後記

コロナとともに始まった今執行部でしたが、いよいよこの三月で任期満了となります。いろいろな制限があり思い通りにならないこともありましたが、そのような中でも、やり方を工夫し新しい方法を取り入れながらの運営となり、今後の豊山仏青にとってもプラスになるような知見、ノウハウの蓄積はできたのではないかと思います。

「広報次長をやるなら！」と意気込んで購入したミラーレス一眼にはあまり出番がありませんでしたが（泣）、『豊友』やホームページ、動画の制作、収録機材の取り扱いなど、様々な経験をさせていただき、個人的にも学びの多い二年間でした。特に「リモート」というのが重要な要素だったこともあり、この任期中で機械にはかなり強くなったような気がします。今回の表紙ではそのあたり、記録していた裏側を全て公開してみました。これらのフィードバックをしっかりと引き継ぎ、これからもより一層先進的な豊山仏青として活動していけるよう、微力ながら協力させていただきたく思っています。

またこの二年間、『豊友』制作にあたりご協力いただいた株式会社ディー・エイ・ティ・コーポレーションさま、記事制作にご協力いただいた会員の皆さま、他全ての関係者の皆さまに感謝申し上げます。ありがとうございました。

豊山仏青広報次長　北林 隆佳

写仏講座・千響チャリティー演奏は

豊山仏青　検索

Facebook

www.facebook.com/buzanbussei/

豊友お問い合わせ先

webussei@gmail.com

豊友　第172号

令和4年3月28日発行

発行人　鈴木　真人

発行所　〒112-0012　東京都文京区大塚5丁目40番8号
真言宗豊山派宗務総合庁舎内　真言宗豊山派仏教青年会

デザイン・印刷　株式会社 ディー・エイ・ティ・コーポレーション